

「ドイツと日本における学術情報流通基盤の未来」 参加報告

星子, 奈美
九州大学情報システム部情報基盤課

<https://hdl.handle.net/2324/20007>

出版情報 : SPARC Japan NewsLetter. 9, pp.9-10, 2011-06. National Institute of Informatics
バージョン :
権利関係 :



TIB（ドイツ技術情報図書館）／ ZB MED（ドイツ医学中央図書館） NII（国立情報学研究所） MoU 締結記念 講演会 「ドイツと日本における学術情報流通基盤の未来」 参加報告

星子 奈美（ほしこ なみ／九州大学情報システム部情報基盤課デジタルライブラリ担当）

2011年3月8日、ドイツ技術情報図書館（TIB）・ドイツ医学中央図書館（ZB MED）・国立情報学研究所（NII）の3機関において、連携覚書（MoU）が締結された。関係者間での締結式終了後に開催されたのが、今回の講演会である*1。

まず、MoU 締結という記念すべき出来事背景に、ドイツ文化センターの尽力があったことを述べておきたい。ドイツと日本が学術情報流通基盤の分野で連携するという構想は、ドイツ文化センター前図書館長であるクリステル・マーンケ氏の在任当時から温められてきた。それは、

形式的な文書の取り交わしではなく、実質的な意味で成果を産み出す連携を目指すものであった。2009年11月に日本の大学図書館員や研究機関の職員がドイツを訪問するスタディツアーが実施された*2ことは、今回のMoU締結の嚆矢であったといえる。ツアーより1年以上の時を経て、マーンケ氏の志は新図書館長バーバラ・リヒター＝ヌゴガング氏に継承され、ようやく形となったのである。調整を続けてこられた関係者の方々に敬意を表しつつ、スタディツアーの一員であった私は、ことさら感慨深い思いで講演会を拝聴した。

講演会では、ドイツと日本それぞれの取組状況が紹介された。ZB MEDのウルリッヒ・コーヴィッツ館長の講演では、ドイツの政治体制に起因する特徴、すなわち、各州の独立性が高いために、中央で集中管理するシステムがなく、資金も分散する傾向があるという点が述べられた。そのためドイツでは、学術情報基盤の整備においても関係機関が緊密な協力体制を保っているのだという。確かに、資料の分担収集や電子ジャーナルの共同管理などの取り組みは、個々の機関が全体の一部分として高い責任意識を持っていなければ、継続の難しい事業であろう。また、インテリジェントな情報検索技術・ナショナルライセンスでの電子資料購読・オープンアクセス・デジタル資料の長期的な保存・バーチャル研究環境などの新たな動きについても触れられた。これらのトピックは、日本でもまさに現在進行形の課題となっており、MoU締結を機に、今後ドイツとの間で一層の情報共有や意見交換が期待される。

TIBのウーヴェ・ローゼマン館長による講演の冒頭では、組織の概要が写真とともに紹介された。TIBが建物を構えるハノーバー大学の敷地内には歴史的な建造物が数多く、そうした環境下に科学技術分野の専門図書館があるという対比が面白い。さらに、学術研究を支える「データセンター」に関するお話も興味深かった。論文などの形となって発表された研究成果とは異なり、研究の過程で生じたデータ自体は、散在し、見つけづらい場所に埋もれがちであり、量的にも膨大なものとなる。そこで、多様な学術的データを検索・提供可能にするデータセンターの存在が重要になるという。ローゼマン氏の見解では、図書館とデータセンターの役割は別個のものとして捉え

られていたが、日本国内の場合を考えると、図書館員が研究者と連携してデータ管理に寄与することも十分あり得るのではないかという感想を抱いた。

一方の日本側からは、NII学術基盤推進部長の安達淳教授より、日本における機関リポジトリの整備状況や、JAIRO、CiNii等のサービスに関する説明がなされ、また、東京大学附属図書館情報管理課の尾城孝一課長より、新たな大学図書館コンソーシアム連合、JUSTICEの運営方針が語られた。このように、ドイツと日本の現状を端的に理解できる、充実した内容の講演会であったが、MoU締結の記念イベントという意味では、両国間の連携についての具体的な構想を伺うことができれば、一層の期待感を参加者の間で共有できたのではないと思う。

講演会の3日後、日本があのような地震に見舞われるとは、会場の誰もが予期し得なかったであろう。ドイツと日本が連携を進める上で、震災から受ける影響は少なからずあると思われるが、じっくりと長期的な視点で、MoU締結を契機とした取り組みが実を結ぶことを心より望んでいる。また、そうした取り組みの中で、私自身に何らかの貢献ができるのであれば、ドイツの図書館を訪問する貴重な機会をいただいた者の一人として、尽力することが責務であろうと考えている。

※ 参考資料

*1: TIB/ ZB MED/NII MoU 締結記念 講演会

「ドイツと日本における 学術情報流通基盤の未来」

<<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2010/20110308.html>>

*2: 「ドイツの図書館を巡るスタディーツアー」

<<http://www.goethe.de/ins/jp/lp/wis/sbd/jaindex.htm>>



図2: バーバラ・リヒター＝ヌゴガング ドイツ文化センター図書館長による開会挨拶・趣旨説明



図3: ウルリッヒ・コーヴィッツ ドイツ医学中央図書館長による安達 淳 国立情報学研究所学術基盤推進部長への質疑